

令和3年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価
及び地域公共交通計画の評価結果概要（全体）

東海市地域公共交通会議 （東海市）

平成22年2月17日設置

平成28年3月 東海市地域公共交通網形成計画策定
（計画期間：平成28年年度～令和5年度）

令和3年6月25日 フィーダー系統 確保維持計画策定等

令和3年12月28日 令和3年度評価結果送付

直近の二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
小学生や高齢者、園児の保護者を対象にバスの利用促進を図る取組を評価する。	引き続き、小学生に対するバスの乗り方教室の実施及び園児が描いた絵画作品をバスに掲示し親子や祖父母の利用促進に努めた。	園児が描いた絵画作品の展示回数を増やしたり、小学生に対するバスの乗り方教室の際に時刻表を配布する等して、親子でバスを利用してもらえようなきっかけをつくっていく。
バスロケーションシステムの導入、GTFS化への対応等、利用者の利便向上を図られることを期待する。	バスロケーションシステムの導入、GTFSデータの公開及びQRコード決済の導入を行い、利用者の利便性向上に努めた。	福祉部署と連携を図りながら、高齢者に対するバスロケーションシステムやQRコード決済の周知を図り、公共交通機関を利用するきっかけをつくっていく。
広域路線の維持等、近隣市町と連携した取組が行われることを期待する。	近隣市から本市への乗り入れに際し、共同してバス停を利用する等、連携して広域路線の維持に努めた。	利便性を充実させるとともに、新しい道路の開通に合わせて、アンケート調査等により市民の需要を把握に努め、近隣市と連携を図りながら乗り入れを検討し、ルート編成を行う。

【主な取り組み】

1. 地域からの意見聴取結果を精査した、路線等の改正案の検討

- ・東海市地域公共交通会議を4回開催し、利便性の向上等を目的とした改正案の協議を行った
- ・改正日：令和2年10月1日
- ・主な改正内容：通勤・通学のための利便性向上を目的とした朝夕ダイヤの新設、慢性的な遅延解消のため1ルート120分に変更、昼間時間帯ルートの変更（南ルートを市役所まで延伸）
- ・改正に併せて行った取り組み：広報紙及びHPに掲載、時刻表を全戸配布、バス停のヘッドパネルの変更（ナンバリング・ピクトグラム・英語表記の追加）



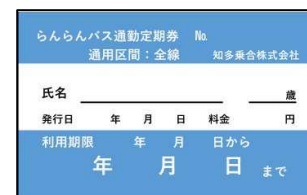
ヘッドパネルデザイン



バスロケーションシステム
導入のお知らせ

3. 定期券の導入

- ・通勤・通学で利用される方の利便性向上を図るため、朝夕ダイヤの新設に併せて定期券を導入した（1箇月2,000円、最長3箇月まで購入可）
- ・販売開始日：令和2年10月1日
- ・販売場所：知多乗合株式会社 東海営業所、東海市観光物産プラザ（太田川駅内）
- ・販売実績：177枚（R2.10～R3.9）



定期券

【主な取り組み】

4. 定期券・回数券のWeb販売開始 (路線バス)

- ・利用者の利便性向上を図るため、定期券及び回数券のWeb販売を開始した
- ・販売開始日：令和3年4月1日

5. ホームページのリニューアル化 (路線バス)

- ・利用者の利便性向上を図るため、知多バスホームページの全面的なリニューアルを図り、路線バスの時刻表や路線等分かりやすく掲載した
- ・更新時期：令和3年3月

6. 交通系ICカード (マナカ等) 決済の導入 (路線バス)

- ・利用者の支払い手段の拡充を図るため、バス車内における運賃支払いを交通系ICカードでの決済を開始する
- ・利用開始日：令和4年2月11日

【主な取り組み】

7. QRコード決済の導入

- ・利用者の支払い手段の拡充を図るため、バス車内における運賃支払い及び回数券購入の際にQRコードでの決済を可能にした
- ・開始日：令和3年9月1日
- ・利用実績：9月（運賃支払い22件、回数券7件）、10月（運賃支払い47件、回数券7件）、11月（運賃支払い70件、回数券13件）

QRコード決済のご案内

このバスは、以下のQRコード決済で運賃をお支払いいただけます。
運賃支払いの際に、係員がお客さまのQRコードを読み取りますので、QRコード画面をご提示ください。



QRコード決済の案内

8. バス車内でのイベントの実施

- ・市内園児が描いた絵画作品を車内に展示し、親子や祖父母の利用促進を図った
- ・実施期間：令和3年7月30日～9月30日



園児の絵画掲示

9. 小学生を対象としたバスの乗り方の実施

- ・バス事業者と協力し、市内小学校（1校）を対象にバスに親しむ機会の創生のため、バスの乗り方教室を実施した（令和3年11月8日 三ツ池小学校1年生対象）
- ・実施内容：バスの内輪差と死角、バス停付近の危険性について学習、バスの乗車体験



乗り方教室

【主な取り組み】

10. 免許証自主返納者に循環バス特別乗車証やタクシー利用助成券を配布

- ・ 運転免許証自主返納支援策として、循環バス特別乗車証やタクシー利用助成券（400円券×5枚、1回の乗車で2枚まで使用可）を配布し、運転免許証返納後の足の確保だけでなく、循環バスやタクシーの利用促進にも寄与している
- ・ 令和2年度実績：循環バス特別乗車証交付102人、タクシー利用助成券交付264人



特別乗車証と助成券

11. 障害者の本人確認を障害者手帳アプリ（ミライロID）での代用開始

- ・ 障害者の本人確認を簡素化するため、障害者手帳アプリによる本人確認を開始し、障害者の利便性向上に努めた（車内にステッカー掲示、HPに掲載）
- ・ 開始日：令和3年6月1日（循環バス・路線バス）



車内ステッカー

12. 循環バス全車内の抗菌処理

- ・ 車内消毒や手指消毒液の設置の他、全車両にウイルス不活性化コート剤（概ね1年程度抗菌効果が持続）の施工を実施し、新型コロナウイルス感染リスクへの不安を取り除き、より安心・安全に利用できる環境を整えた（車内にステッカー掲示、バスロケーションシステムやHPに掲載）
- ・ 実施日：令和3年9月21日



抗菌処理の様子

【網形成計画における評価に係る事項】

成果指標	平成30年度目標値	平成30年度実績	令和 2 年度実績
市内鉄道乗降客数	45,500人/日	54,077人/日	42,679人/日
市内路線バス利用者数	367,000人/年	281,000人/年	244,620人/年
らんらんバス利用者数	350,000人/年	439,172人/年	299,336人/年
買い物、通勤、通学などの日常生活の移動がしやすいと思う人の割合	58%	60.1%	63.8%

【参考指標】

成果指標	平成30年度実績	令和 2 年度実績
鉄道やバスなどの公共交通機関が利用しやすいと思う人の割合	51%	52.7%

【フィーダー系統利用実績】

	中ルート輸送人員	南ルート輸送人員
令和元年（H30.10～R1.9）	146,730人	135,485人
令和 2 年（R1.10～R2.9）	122,559人	114,388人
令和 3 年（R2.10～R3.9）	93,079人	88,832人

◆目標達成状況に対する考察

平成30年度までは、平成28年度から開始した高齢者循環バス利用促進事業により、循環バスの利用者は増え続けていたが、令和2年度は新型コロナウイルスによる高齢者の外出自粛や公共施設の利用制限等の影響により利用者数が落ち込み、例年より約14万人の利用者数減少となった。

令和2年10月にダイヤ改正を実施し、**朝夕ダイヤの新設、定期券の販売開始、バスロケーションシステムの導入**等、利用者の利便性向上を図ったことから「公共交通機関が利用しやすいと思う人の割合」が改善し、「買い物、通勤、通学などの日常生活の移動がしやすいと思う人の割合」の改善にも繋がった。

バス停のヘッドパネルにナンバリング、**ピクトグラム及び英語表記を追加**したことや**GTFSデータを公開**したことにより、訪日外国人旅行客や市外の方にも分かりやすいバス停表示やバスルートを検索しやすい環境となり、利便性の向上に繋がった。

定期券の販売を開始したことにより、通勤・通学で利用される方以外にも日常的に利用される方の利便性の向上に寄与し、販売箇所も運行事業所だけでなく、循環バス利用者の多い太田川駅での販売も追加し、購入の促進に寄与した。

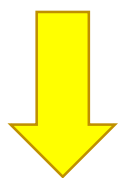
園児の絵画作品をバス車内に展示することで、親子や祖父母の利用促進を図り、公共交通を利用するきっかけ作りに貢献した。

令和2年度から運転免許証を自主返納した75歳未満の方に対する贈呈品を、循環バスの回数券から**循環バスの特別乗車証**に変更したことにより、運転免許証自主返納を促すだけでなく、継続して公共交通機関を利用するきっかけとなっている。

令和3年9月に導入した**QRコード決済**においては、導入後、毎月利用実績が増えており、利用者の利便性向上に繋がるだけでなく、運賃支払いの際の接触機会の軽減にもなっている。

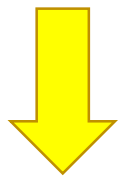
抗菌処理を施した旨を車内に表示することや広報紙への掲載を行うことで、感染予防対策の徹底を理解してもらい、利用者の増加を図っている。

課題



自家用車での移動が多く、公共交通を利用する機会が少ないため、バスを利用するきっかけをつくること
新型コロナウイルスの影響もあり、利用者が減少しているため、安心して利用してもらえるバス環境をつくること

対応方針



- ・モビリティ・マネジメントを充実させる
- ・安心・安全な運行を実施している旨をPRする
- ・公共交通の利便性や必要性についてPRする

対応方針の実現に向けた取り組み

- ・高齢者に対するモビリティ・マネジメントを実施する際に、バスの乗り方の他にも、時刻表の見方、バスの乗り継ぎの仕方、バスロケーションシステムの使い方やQRコード決済の仕方についても説明する。
- ・小学生に対するバスの乗り方教室を実施する際に、高学年対象の場合は環境保護や交通弱者の移動手段の確保など、公共交通の必要性を説明する。また、時刻表を配布する等して親子でバスに乗るきっかけづくりも行う。
- ・循環バスの全車両に抗菌処理を施し、その旨を車内のステッカー表示だけでなく、広報紙やHP等でPRして、安心・安全に利用してもらえるように努める。
- ・広報等で運転免許証の自主返納を促す記事を掲載する際に、循環バス特別乗車証の交付の他、車の維持費がなくなり年間の交通費が安くなる旨をPRする。また、地元警察署や福祉部署や市民協働関係部署と連携して、公共交通について理解を図る機会をつくっていく。
- ・定期券の販売促進を図るため、販売先だけでなく、車内や広報紙等でも積極的にPRを行っていく。
- ・将来、近隣市への乗り入れ等を検討していく中で、新たな需要の発掘のために市民アンケートを実施する

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名： 東海市地域公共交通会議

令和3年12月22日

評価対象事業名： 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
【補助対象となる事業者 名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備 内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業に おいて、車両減価償却費等及び公有民営方式車 両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている 場合、離島航路に係る確保維持事業において離 島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。) を受けている場合は、その旨記載】	【事業評価の評価対象期間 において、前回の事業評価 結果をどのように生活交通 確保維持改善計画に反映さ せた上で事業を実施したか を記載】	A・B・C 評価 【計画に基づく事業が適切に実 施されたかを記載。計画どおり実 施されなかった場合には、理由 等記載】	A・B・C 評価 【計画に位置付けられた定量的 な目標・効果が達成されたかを、 目標ごとに記載。目標・効果が達 成できなかった場合には、理由 等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記 載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地 域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果 を生活交通確保維持改善計画にどのように反映 させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載 すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその 旨記載
知多乗合株式会社	・東海市循環バス中ルート③ 太田川駅を起終点とする 23.9km ・東海市循環バス中ルート④ 太田川駅前を起終点とする 23.7km ・東海市循環バス南ルート⑤ 加木屋車庫前を起終点とする 24.2km ・東海市循環バス南ルート⑥ 加木屋デイサービスセンター を起終点とする 23.6km	昨年10月のダイヤ改正に 伴う朝夕ダイヤの新設に併 せて、定期券制度の導入を 行った。 より利用しやすく充実した 公共交通となるよう、バスロ ケーションを導入するととも に、GTFSデータをホーム ページに公開した。 また、バス車内におけるQR コード決済を可能にし、更な る利便性の向上を図った。	A 中ルート 定期券制度の導入により、毎日 利用される方の乗降に係る負担 を減らすことができた。定期券の 販売箇所については、利用者の 多い太田川駅を追加することで、 更なる利便性向上を図った。バス ロケーションシステムの導入に より、バスの運行状況をリアルタ イムで知ることができるため、バス 停での待ち時間を最小限にし たり、早い段階で他の公共交通 機関への乗り換えが可能になっ た。GTFSデータの公開を行った ことによりGoogle mapでの検索 が可能になり、交通手段の一つ として周知を図ることができる ようになった。	A 循環バスの利用者数 目標：14万2千人 実績：9万3千人 【目標が達成できなかった理由】 新型コロナウイルスの影響を受 けて利用者数が減少しても、運 行便数の減少及び変更等を行う ことなく、生活交通としての移動 手段の確保を行うことができた。 中ルートは、市内主要3駅その他、 公共施設やスーパー等への乗り 入れを行っている路線であり、新 型コロナウイルス感染症の影響 を受け、駅や公共施設(イベント の中止)の利用者や買い物等の 外出機会が減ったため、バス利 用者が減少したと考える。	定期券やQRコード決済の周知を図り、 利便性の良さを理解してもらい、通勤・ 通学で駅を利用される方の利用を増や していく。 また、車内消毒だけでなく、抗菌処理を 施し、その旨をしっかりとPRしてくこと で、安心して利用してもらえる環境を整 えていく。 福祉部局等と連携を図りながら、高齢 者を対象とした乗り方教室を実施する 際に、バスロケーションシステムの使い 方についても説明し、バスの利便性に ついて知ってもらうことで、利用促進に 繋げていく。
			A 南ルート ダイヤ改正により、乗り換えなし で市役所まで行けるようになり、 利用者の負担軽減を図ることが できた。 定期券制度の導入により、毎日 利用される方の乗降に係る負担 を減らすことができた。 GTFSデータの公開を行ったこと によりGoogle mapでの検索が可 能になり、交通手段の一つとして 周知を図ることができるように なった。	B 循環バスの利用者数 目標：14万人 実績：8万8千人 【目標が達成できなかった理由】 新型コロナウイルスの影響を受 けて利用者数が減少しても、運 行便数の減少及び変更等を行う ことなく、生活交通としての移動 手段の確保を行うことができた。 南ルートは、市内主要4駅その他、 公共施設や病院等への乗り入れ を行っている路線であり、新型コ ロナウイルス感染症の影響を受 け、駅や公共施設(イベントの中 止)の利用者が減ったことや、病 院の利用制限が行われたことに より、バス利用者が減少したと考 える。	定期券やQRコード決済の周知を図り、 利便性の良さを理解してもらい、通勤・ 通学で駅を利用される方の利用を増や していく。 また、車内消毒だけでなく、抗菌処理を 施し、その旨をしっかりとPRしてくこと で、安心して利用してもらえる環境を整 えていく。 公共施設で行われるイベント案内のチ ラシ等に交通手段の中に循環バスを記 載してもらう等、バスの利用を促してい く。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和3年12月22日

協議会名:	東海市地域公共交通会議
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	東海市は、名古屋駅と中部国際空港を連絡する名鉄常滑線と、太田川駅から知多半島の南端を連絡する名鉄河和線により南北の公共交通基幹軸が、隣接する大府市のJR共和駅・大府駅と太田川駅を連絡する独自路線バス(知多バス上野台線・横須賀線)により東西の公共交通基幹軸が形成されている。これらの公共交通基幹軸を補完し、市内の公共施設及び住宅地域を結ぶ地域内フィーダー交通として循環バスによる市内の生活交通ネットワークが形成されている。 地域内フィーダーである東海市循環バスは、平成25年度に実施したバス利用者及び市民アンケートでは82%の市民からバス交通は必要であるとの回答が得られているものの、R02.10月～R03.09月中の利用人数は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり27万9千人と大きく落ち込んだ。また、地域間幹線系統である知多バス横須賀線については、沿線にある高等学校の利用者数が減少している等の理由から収益が伸び悩んでおり、平成28年には一部路線が廃止となる等、幹線の路線維持が喫緊の課題となっている。 令和6年3月には市内に名古屋鉄道の新駅(名鉄河和線 高横須賀駅～南加木屋駅間)が完成し、令和6年度中には隣接する大府市へ抜ける養父森岡線(幹線道路)が開通することから、今後市内交通の流れが大きく変わることが予想される。 また、本市の中心的交通結節点である太田川駅周辺には、東海市芸術劇場を始めとした文化施設・大学・商業施設等が整備されており、各施設の来訪者のみならず、令和9年のリニア中央新幹線の開通に併せて新たな人流が生まれ、より一層の「にぎわい」創出が予想される。 昨年度から新型コロナウイルス感染症の影響を受け、民間路線を含めた市内ほぼ全ての公共交通機関において利用者数が大きく落ち込んでいる。今後も平成27年度に策定した東海市地域公共交通網形成計画を推進しながら、市民の公共交通に対する期待値が変化してきていることも鑑み、地域における輸送資源を最大限生かした持続可能な公共交通体系の構築を目指しているところである。

＜地域公共交通計画の評価等結果の様式＞

東海市（区町村）地域公共交通計画の評価等結果（令和２年４月～令和３年３月）

目標	目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	備考
らんらんバス利用者数： 309,884人/年(H26)→ 365,000人/年(R5)	・朝夕ダイヤの設定 ・バスロケーションシステムの導入 ・GTFSデータの公開 ・定期券の導入 ・QRコード決済の導入 ・車内抗菌処理	バス事業者からの利用者明細表	299,336人/年 新型コロナウイルスによる外出自粛の影響により急激に利用者数が落ち込んだ。	車内消毒だけでなく、抗菌処理を施し、その旨をしっかりとPRしてくことで、安心して利用してもらえる環境を整えていく。	
買い物、通勤、通学などの日常生活での移動がしやすいと思う人の割合： 55.7%(H24)→60.5%(R5)	・朝夕ダイヤの設定 ・バスロケーションシステムの導入 ・GTFSデータの公開 ・定期券の導入 ・QRコード決済の導入	市民アンケート	63.8% 朝夕ダイヤの新設、バスロケーションシステムの導入等、利用者の利便性向上を図ったことから改善に繋がった。	定期券やQRコード決済の周知を図り、利便性の良さを理解してもらい、通勤・通学で駅を利用される方の利用を増やしていく。	
らんらんバスの満足度 55%(H23)→70%(R5)	・朝夕ダイヤの設定 ・南ルートの延伸 ・バスロケーションシステムの導入 ・GTFSデータの公開 ・定期券の導入 ・QRコード決済の導入	市民アンケート (R4調査予定)	－	新たな生活様式による公共交通利用者のニーズを把握するため、市民アンケート及びOD調査を実施し、次期計画及びルート・ダイヤ改正に繋げていく。	
75歳以上高齢者の外出率 53%(H23)→65%(R5)	・高齢者循環バス利用促進事業 ・免許証自主返納支援事業	中京都市圏パーソントリップ調査(R3調査)	－	福祉部局等と連携を図りながら、高齢者を対象とした乗り方教室を実施する際に、バスロケーションシステムの使い方についても説明し、バスの利便性について知ってもらうことで、利用促進に繋げていく。	

(記載に当たっての留意事項)

- ・ 本様式中、表題の「（○年○月～○年○月）」の部分には、評価等の対象となる期間を記入してください。
- ・ 毎年度の評価になじまないような目標や、数年おきの評価を予定している目標については、「備考」の欄にその旨を明記の上、「目標」及び「備考」の欄以外は「－」と記載して下さい。
- ・ 一つの目標と複数の取組が対応している場合や、複数の目標と一つの取組が対応している場合には、適宜欄を修正の上、記載を行ってください。
- ・ 月ごとの利用者数の推移等の詳細データや、地域公共交通計画の評価等に係る協議会における議論の結果（議事録等）等の関連資料がある場合には、併せて添付して下さい。
- ・ 地方公共団体・協議会等において独自に作成している評価等の様式が既にある場合や、地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価を行った報告様式がある場合には、参考資料として添付して下さい。